

あいであ & アイデア

自前で製作「給餌車」

社団法人 茨城県畜産協会 渡邊 賢一

今回は、茨城県笠間市で黒毛和牛170頭を飼養している設楽俊夫さん（常陸牛指定生産者）が自前で製作した給餌車（配餌車）を紹介します。

給餌機：feeder

「畜産用語辞典」（養賢堂）によると、「給餌器とは、家畜に飼料を給与する機器、固定飼槽へ飼料を配る場合は給餌器（機）、家畜の種類や飼料の種類によって種々の方式・構造のもの」と記載されています。

最近では、給餌車もさまざまなもの（エンジン付き、バッテリー式、FRP素材の物など）が出回っています。もちろんお金があれば購入も可能なのですが、若干の手間をかけるだけでそれぞれの経営に合った給餌車が製作可能です。



準備するもの

①コンパネ（2枚）1枚当たり2000円程度（ホームセンター等で購入可）、厚さは9mm～12mm程度、サイズは910mm×1820mmでOKです。

正確には、コンクリート型枠用合板をコンクリートパネルといいますが、使わなくなった単なる板でも（厚みがあれば）十分です。

②一輪車のタイヤ（2個）1個800円程度です。若干高価ですが、パンクしない発砲ウレタンタイヤなどもあります。

③前輪用、自在キャスター付タイヤ（2個）1個1000円程度

④鉄棒フレーム（L型30mmのものを4m程度×2本）、鉄丸パイプ3本（取っ手用）

⑤使用する溶接機（エンジン付き溶接機）は、ホームセンター等で販売している小型のものでも性能は十分です。

⑥メジャー（巻尺）、水平器、ペンチ、サンダーまたはグラインダー、ペン、ゴム等



製作方法とポイント

①鉄棒フレームの寸法（幅1m25cm・奥行き82cm・高さ45cmの長方体）を測り、縦に4本、横2本使って、土台（底面）を造る。

※切断時のサンダーまたはグラインダー使用時は、火花もでることから、引火物のない所で作業して下さい。（牛舎の通路幅を加味し、水平になるよう計測することがポイント）

②フレーム枠を組み、縦に柱（鉄骨部品）を立て、アングル（角度）を決め、結合ポイントの各所を溶接する。この時、水平器を使い、給餌車底面の水平を確認する。

また、タイヤの高さに合わせ、タイヤを設置するフレームや、コンパネ押さえ部分（写真○部分）も取り付ける。

③フレームサイズに合わせ、コンパネを取り付ける（縦2枚、横2枚、底1枚）。

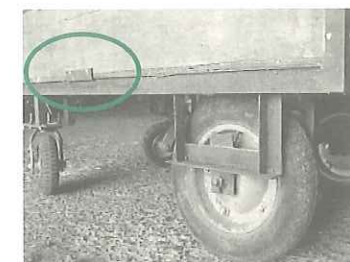
※コンパネは、鉄棒とともにネジ留めし固定する。

④枠が完成したら、タイヤ（前輪・後輪）を取り付け調節する。

④手押し部分（丸パイプ）をしっかりと固定できるよう溶接し、取り付ける。

※縦に設置するパイプは、古電柱等を利用し、てこの原理で若干曲げておくことがポイント。

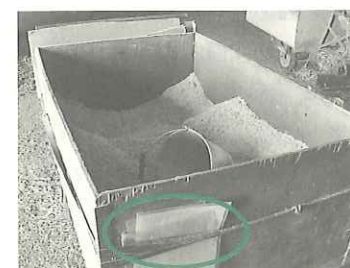
⑤後は、あなたの腕次第……完成。



工夫と改善点

・コンパネ部分にゴムを付けることにより、飼料給与量や牛個体状況のチェックができるような飼養管理表を備えて日常管理が行えます。

・以前の給餌車の前輪は、ゴム製で直進しかできない上、振動が大きく、力も必要でしたが、チューブ入りの自在タイヤに変更することにより、飼料給与時の労力が楽になっています。



～ その他自作給餌車の御紹介 ～



四輪小型タイプの給餌車



粗飼料専用の配餌車（改良型）

現在は、紹介した給餌車が2台、小型車が1台、粗飼料専用車が1台あり、既に数十年使用しているとのことで、タイヤの交換はあるものの、安価ででき、長期利用が可能です。みなさんも自身で製作してみませんか？

あいであ & アイデア